

みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第56号

発行日
平成26年6月1日

◇ 目 次 ◇

- | | | | |
|----|--|----|------------------------------|
| P2 | 平成 26 年度宮島地区パークボラン
ティアの会総会 | P5 | 宮島二流記 |
| P3 | 平成 25 年度 PV 活動記録 | P6 | 高安ヶ原・青海苔浦清掃登山
鷹ノ巣高砲台清掃・整備 |
| P4 | センターまつり 2014
小なきり海岸清掃・植物観察
ゲンカイツツジを訪ねて | P7 | 新緑の弥山原始林を歩こう
入浜池補足調査① |



イワタイゲキ（トウダイグサ科）

宮島西部の室浜から反時計回りに入浜までの海岸、乾いた砂浜に生育する。その群落は、4～5月に鮮やかな黄色の盛り花の如く海岸線を彩り、行きかう漁船の人たちの目を楽しませていることであろう。

花卉のように見える黄色の苞葉の中の小さな花序。その独特な形。名前の由来はどこから？

広島県レッドデータブックでは準絶滅危惧種に指定されているが宮島では少しずつ増えてきているようだ。

（文・写真 横路 晃）

平成 26 年度 宮島地区パークボランティアの会総会

PV の会平成 26 年度定期総会が 4 月 5 日(土)杉之浦市民センター(公民館)に於いて開催された。

(出席者) 足立 岩崎 小方ペア 小川 奥田 恩田 金山 川崎 河村 北野 黒木 五石 小林ペア
小林(寛) 坂本 佐渡 佐藤(佐) 佐藤(庸) 渋谷 島 末原 兎谷 中道 錦織 平田(広) 檜和田
佛崎 舩田 松尾 松田 宮本 三次 村上 山崎 横路 呼坂 六重部
(環境省) 柴原自然保護官 大高下 AR

1. 開会 (司会 岩崎副会長)

開会前に全会員の集合写真を撮影し、9 時 40 分開会。配布資料の確認のあと、出席者全員が自己紹介を行った。

2. 開会あいさつ (司会 岩崎副会長)

● 環境省・柴原自然保護官挨拶

今年度は宮島 PV 発足 15 年目、瀬戸内海国立公園誕生 80 周年など節目の年になる。益々のご活躍をお願いする。

● 環境省・大高下 AR 挨拶

会員の多くの方が登録更新していただき心強い。環境省主催の研修会は広島市昆虫館の坂本先生のお話を予定している。

● 村上会長 挨拶

昨年度、池田靖夫さんが亡くなられた。ご冥福をお祈りしたい。また、会員登録更新では 4 名の方が種々のご都合で退会され、今年度会員数は 49 名となった。昨年度は 2 件の表彰とともに無事故で経過し順風満帆だった。

今年度は「瀬戸内しまのわ 2014」や「瀬戸内海国立公園指定 80 周年パー

トナーシップ」認定のイベントなども予定している。今まで通り地道な活動を続けたい。

会員も高齢化しているが PV 活動は「キョーイク(今日行くべきところがある)」と「キョ

ーヨウ(今日するべき用がある)」であり認知症予防に有効のはず。より多くの人の参加をお願いする。

3. 総会の成立確認

出席会員数 38 名(途中退席 1 名を除く)、委任状提出者 8 名、合計 46 名となり、会員総数 49 名の過半数あり、総会の成立を確認。

4. 総会議事(議長 村上会長)

次の 4 議案につき会長・各部会長・会計から説明・報告がなされ、異議なく承認された。

● 平成 25 年度活動状況

● 平成 26 年度活動計画 (案)

● 平成 25 年度決算

足立監査員から適正との監査報告

● 平成 26 年度予算 (案)

5. 至近行事の説明 (小林・末原各部会長)

4~5 月の行事案内。

6. 会員名簿(足立)

最新の会員名簿を配布。退会者があったので会員番号を変更した。

7. 総会終了

その他の意見交換を行い、予



杉之浦市民センター裏にて

定通り 11 時 55 分終了。

(文：川崎 昭壽、写真：中道 勉)

H25 年度 PV 活動記録 (平成 25 年 4 月～26 年 3 月)

	開催日	行 事	場 所	参加人数	備 考
会 合	4/13(土)	平成 25 年度定期総会	杉之浦公民館	45	
	12/7(土)	会員の集い	宮島市民センター	29	
観 察 部 会	6/8(土)	公募観察会①	鳥居周辺干潟観察会	18	一般参加者 32 名
	9/14(土)	公募観察会②	入浜コース	22	一般参加者 44 名
	11/16(土)	公募観察会③	包ヶ浦自然歩道コース	21	一般参加者 22 名
	4/13(土)	自主観察会①	小なきり浜周辺	4	植物・生物調査
	5/26(土)	自主観察会②	鳥居周辺干潟観察会	12	兼公募①下見
	7/20(土)	自主観察会③	ミヅマトボ生息湿地	25	
	9/7(土)	自主観察会④	入浜コース	14	兼公募②下見
	9/17(火)	自主観察会⑤	佐伯運動公園	6	ハチクマの渡り観察
	11/9(土)	自主観察会⑥	包ヶ浦自然歩道コース	13	兼公募③下見
	H26/1/11(日)	自主観察会⑦	弥山新春登山	14	
	10/19(土)	自主観察会(OP)	広島市似島	14	
	H26/1/25(土)	自主観察会(OP)	岩国市門前川	11	冬鳥観察
	4/13(土)	入浜定点観察①	入浜	5	総会後
	5/25(土)	入浜定点観察②	入浜	13	
	6/22(土)	入浜定点観察③	入浜	18	
	7/27(土)	入浜定点観察④	入浜	16	
	9/7(土)	入浜定点観察⑥	入浜	14	自主観察会④と同じ
	10/12(土)	入浜定点観察⑦	入浜	12	
	H26/2/22(土)	入浜定点観察⑧	入浜	7	
環 境 整 備 部 会	4/13(土)	宮島市街地周辺美化	小なきり浜	16	
	4/20(土)	岩船岳清掃登山	あての木浦～岩船岳	11	
	5/18(土)	鷹ノ巣高砲台跡整備・清掃	鷹ノ巣高砲台	14	
	7/13(土)	包ヶ浦海岸清掃	包ヶ浦	25	作業終了後昼食会
	7/22(月)	厳島神社前海浜清掃	厳島神社前	20	
	8/4(日)	自然公園クリーンデー	包ヶ浦、杉之浦他	16	
	10/26(土)	紅葉谷公園歩道補修・清掃	紅葉谷公園	23	兼さくら・もみじの会保全協力
	11/2(土)	樹木名板維持管理(うぐいす道、もみじ歩道、あせび歩道))		18	
	12/14(土)	弥山登山道補修・清掃(獅子岩駅～弥山～大聖院ルート)		22	
	定点観察日と同日	入浜池汽水化維持管理および森林保全整備		延 85	
そ の 他	7/6(土)	宮島 PV 自主研修会	宮島市民センター	20	救急救命講習会
	10/6(日)	はつかいち環境フェスタ出展	廿日市スポーツセンター	6	活動紹介
	10/27(日)	中四国地区 PV 活動交流会	大三島	18	
	11/24(日)	観音台公民館活動協力	極楽寺山	10	極楽寺山探勝協力
	12/7(土)	宮島 PV 自主研修会	宮島市民センター	29	会員発表の場
	H26/2/1(土)	環境省主催研修会	宮島市民センター/水族館	40	
	H26/2/22(土)	海岸漂着ゴミ回収事業	入浜	22	
	H26/3/2(日)	廿日市センターまつり 2014	廿日市市民センター	2	活動紹介

注： 行事名の付番の欠番は雨天等で中止した行事

センターまつり 2014

日 時 3月2日(日) 10時～15時
場 所 廿日市市民活動センター
参加者 岩崎 村上

廿日市市民活動センターを利用する各種団体が集まり、その活動発表などがありました。当会からもポスター1枚を展示し、活動を紹介しました。



開会式

(写真 岩崎 義一)

小なきり海岸 清掃・植物観察

日 時 4月5日(土) 12:45～13:15
場 所 小なきり海岸
参加者 岩崎 小方ペア 恩田 金山 川崎
北野 黒木 五石 小林(寛) 坂本 佐藤(佐)
佐藤(庸) 末原 兎谷 錦織 平田(広)
檜和田 佛崎 舛田 三次 村上 呼坂
六重部

環境省 柴原自然保護官 大高下 AR

平成 26 年度総会のあと、恒例の小なきり海岸の清掃と植物観察を行った。

【清掃】

缶、ビン、PET ボトルなど収集したゴミは約 90kg だった。

【植物観察】

今年もザイフリボクの白い花が咲く左手斜面を登りつつ、足元、頭上と見ながら進むが、昨年同様の情景が脳裏に浮かぶ。「ほとんど変化がないな・・・」。大きなカゴノキを回り込み、更に上に進んだ頃、顔に一粒の水！今年は早々に引き上げることとなった。

(文 北野 孝幸)

暖かくなっていた気温も急に低くなり寒い一日でしたが、ハマゴウの猛烈な繁殖力に驚きました。そして、サルトリイバラやネジキ

など、木々は元気よく新芽が覗いていました。この新鮮な活力をいただいて今年度も健やかに活動したいと思います。

(文 小方 嗣彬)

同日に行われた「入浜池補足調査①」の報告は P7 に掲載しています。

ゲンカイツツジを訪ねて

日 時 4月12日(土) 9時～15時30分
場 所 江田島市古鷹山 (島外自主観察会)
往 路 宇品港→小用港→古鷹山山頂
復 路 古鷹山山頂→切串港→宇品港
参加者 大西 川崎 北野 黒木 小林ペア
小林(寛) 佐藤(佐) 佐藤(庸) 兎谷 中道
野呂田 平田(広) 村上

本年度、第 1 回の観察会は、観察部会長、小林勲氏に企画・引率いただき、「島の春を感じてみよう」のテーマで、江田島市の古鷹山登山だった。曇りがちの天気であったが何とか雨に会うこともなく、補佐役の小林みどり氏の植物ガイドを頂きながら、楽しい登山観察が予定通り進んだ。ご両氏に心よりお礼申し上げる。紙面の都合上、稚拙乍ら、今回の印象を五句詠に集約させて頂いた。

登山行程で出会った他の主な花、植物

【ザイフリボク、イタドリ、ワラビ、ヤマツツジ、コウヤミズキ、オオシマザクラ、ツバキ】



ヤマツツジ

ゲンカイツツジ

2014/04/12

古鷹山登山五句

- ☆ ぐみの実や古鷹山の登山口
- ☆ 鶯に脳天打たれつづら折り
- ☆ 山裾の郷愁さそふ花あけび
- ☆ 名に違え婀娜な玄海つつじかな
- ☆ 下山して出会ふ名残りの山ざくら

(文 黒木 隆信)

宮 島 二 流 記 (その 18)

平田 広三郎

Q18:「空海と宮島のかかわりはどのようなものだったのでしょうか？」

「宮島の弥山は弘法大師の開基なり・・・」とよく言われますが、実はこの言葉の文献上の初出は「平家物語」にあるのです。

A18:「空海は厳島にきたようです。」

空海は、774 年讃岐国多度郡（香川県善通寺市）に生まれ、十五歳にして伯父の阿刀大足（あのおおたり）に伴われて奈良の都に上がり、十八歳で大学明経科（官吏養成所）に入学し、儒学などを学びます。しかし大学の授業に飽き足らず、仏教に心惹かれ、一沙門（僧）から「虚空蔵求聞持法」を聞いたのを機に、大学を去り山林修行者・優婆塞（うばそく：在家仏者）として出発し、修行の地は四国山野でした。二十歳の時、剃髪して沙弥（しゃみ：私度僧）となり、出家僧名「空海」を名乗ります。二十四歳には日本で初めての自叙伝的戯曲「三教指帰（さんごうしいき）」を書きますが、その後奈良諸宗の顕教から密教を知り、その中で密教の根本仏典である「大日経」に接します。しかし中国に渡らない限り大日経の奥義は得られないと心に秘め、渡唐するため延暦 23 年（804）三十一歳 急遽私度僧から正式の出家僧になります。

延暦 23 年の遣唐使（第十六次）は、22 年に一度出発していますが、第一船が瀬戸内海で嵐のため破損したため、23 年 5 月修理を終えての再出発です。第一船には、留学生（20 年の長期留学生）空海を乗せて難波津を出発します。第二船には、環学生（げんがくしょう）最澄が乗船しています。

12 月に長安に着いた空海は、中国密教の巨匠 青龍寺の真言七祖恵果阿闍梨（あじやり）に会い、6 月に大悲胎藏大曼荼羅、7 月に金剛界大曼荼羅の灌頂を受けます。この両方の時空海が目隠しして投げた花が曼荼羅の大日如来の上に落ちます。これ以降空海はその密教名を大日如来の別名「遍照金剛」と呼ばれ、四国遍路の人々が唱える「南無大師遍照金剛」はこれに由来しています。8 月には伝法灌頂を受け、恵果との初見以後半年足らずの間に、正当な密教の秘奥を受け、真言八祖になりま

す。空海にすべてを授け終わった恵果は 12 月に遷化します。空海は大同元年（806 年）、曼荼羅・法具等を携え帰国しますが、早期に帰国したので、九州・大宰府に謹慎します。

平家物語には、八十数種類の異本が存在しますが、「長門本・平家物語」には、「・・・空海が入唐の際、厳島に詣でて七日の参籠をなし、そのとき大明神が御対面あつて・・・」とあります。平家物語の作成には真言系や天台系の僧が関わっていたようです。

遣唐使船は、一隻に約 150 人乗るほどの大型船であり、その建造には用材確保も重要でした。安芸国にはまだ豊富な山林資源があり、しかも倉橋島付近は造船が盛んでしたので、遣唐使船が作られています。当然途中での修理が必要なので船大工が乗船します。船大工達は宮島には航行の安全を司る「宗像の三女神」がいることを知っており、特に今回は遣唐使へ宮島での安全祈願を願い出たと思われます。そこで野外祭祀場である博打尾に一〜二日掛けて祭壇を作り、航行の安全を祈願したと考えられます。祭壇を作る間、空海は弥山の修行者がどのような修行をしているか見てやろうと、弥山に登ったことでしょう。このあたりが真相ではないでしょうか。遣唐使は「長門本」のように、まだ無名の一留学生・空海のために七日間も待つてはくれなかったと思います。後に京都か高野山で空海が弟子達に語ったことが伝わったのでしょう。



私は未読ですが、各寺院に問い合わせた守山聖真編「文化史上より見たる弘法大師伝」（新義真言宗豊山派宗務所 昭和八年刊）には、四十六ヶ国、四百二十六の大師伝説が記載され、安芸国には二つあるそうです。

次回 Q19 は「役行者小角（えんのぎょうじや おづぬ）と宮島のかかわりは！」です。

※参考文献

- ・「遣唐使の光芒」森 公章 角川選書
平成 22 年
- ・「歴史読本 弘法大師空海」
新人物往来社 昭和 59 年
- ・「平家物語を読む」川合 康編
吉川弘文館 平成 21 年
- ・「厳島信仰事典」野坂元良編
戎光祥出版（株） 2002.11

高安ヶ原・青海苔浦清掃登山

日 時 4月26日(土)9時～14時40分

参加者 岩崎 川崎 北野 小林ペア 小林(寛)
佐藤(庸) 末原 中道 錦織 野呂田 平田(攻)
平田(広) 村上 山崎 横路 呼坂

環境省 大高下 AR

好天に恵まれ総勢 18 名が、タクシーに分乗して多々良の登山道入り口に 9:30 全員集合！本日の目的、ルート、注意事項などの話があって川沿いの登山道を縦列になって出発。途中、ウグイスの囀り、コゲラのドラミング等を聞きながら一気に尾根まで踏破！水分補給をしながら一服し、現在地の確認。

下りに入り眼下に大野の瀬戸と牡蠣筏を見ながら進むとクロバイの白い花が遠くに見える。

目についたテープや幹に食い込んだ標識などを回収しながら高安ヶ原の陶晴賢が自害したと推定される場所に到着。石碑を中心に記念撮影。



高安ヶ原にて

地元出身のボランティアから「ここはパワースポットで怖い所だった」と聞かされる。

割と平坦な道を進む。イノシシのぬた場や掘り返した跡を見る。こぼれ日を受ける歩道沿いに可憐な紫色のフデリンドウがちらほら咲いている。シマヘビも歓迎？してくれる。石垣づくりの立派な橋台が残っており、軍が作ったのか・・・あるいは戦後開拓者が作ったのか・・・と疑問がふくらむ。

ウリハダカエデの芽生えから開花までの状況、サルトリイバラの黄色い花も散見される。

いよいよ取水池に到着！「ここから自然落下で大砂利に送水し、そこで浄化して島内に給水しているが、ただ給水量の 30%で残りは弥栄ダムからの県水で賄っている」とのこと。

金網の柵内にキラソウの青紫の花、タゲニグサの芽生えもある。(鹿の食害に合わないから)

取水池から大砂利まで車道が通っており歩きはラクチン！青海苔神社で、青い海と砂浜を目の前にして昼食。春の山菜コゴミの差し入れ・・・美味しく戴く。春霞か遠くは霞んで見える。(PM2.5 でなければよいが)

青海苔浦の砂浜にはハクセンシオマネキがいるが、時期が早いのか残念ながら見られない。(カメノテ、クロフジツボ、イワヒゲなどきれいな海に棲む生物はみられ、ワカメ、フクロフノリなど早春の海の贈り物も岩に付着している。)

カンザブロウノキの新芽が淡い紫色！その繊細な姿に心を洗われる。クロバイが、車道脇に満開！岬を回る毎に、山一面に俺の季節だとばかりに咲き誇っている。ヒメヤマツツジやコバノミツバツツジの淡桃色の花も点在。

ミヤマガマズミ、ニガイチゴ、ザイフリボクの白い花も満開！

14:40 終点、大砂利に到着！タクシーを呼ぶ組、途中まで歩く組、最後まで歩く組、磯に降りてワカメやフノリを観察する人など夫々の行動を決めて解散。私は鷹ノ巣まで歩き、タクシーで帰参。途中入浜でナンゴクウラシマソウの群生地に出会う。写真をパチリ！ 本日の歩行数 25,000 歩！

(文：平田 攻)

鷹ノ巣高砲台跡の整備・清掃

日 時 5月10日(土)9時～12時45分

参加者 岩崎 大西 小方(嗣) 恩田 川崎
北野 黒木 小林(勲) 小林(寛) 佐藤(佐)
末原 兎谷 中道 平田(広) 檜和田 村上
柳瀬 吉崎 六重部

環境省 大高下 AR

高砲台跡、方位観測所跡、砲台長室跡、地区砲台司令室跡、便所跡において通路を邪魔する倒木の除去、階段に積もった落ち葉の掃除、崩れかかった



司令室跡の整備

(P7 に続く)

(P6 より続く) 階段の補修などを行った。

休憩時間には末原副会長お手製の「かるかん」で疲れを癒した。(文と写真 川崎 昭壽)

新緑の弥山原始林を歩こう

《瀬戸内しまのわ 2014、国立公園 80 周年パートナーシップイベント 公募観察会》

日 時 5 月 25 日(日)9 時～15 時 30 分

参加者 岩崎 大西 小方(嗣) 奥田 川崎
小林ペア 坂本 佐渡 佐藤(庸) 佐藤(佐) 島
末原 兎谷 中道 村上 山崎 横路 六重部
環境省 榊自然保護官 武石自然保護官
大高下 AR

一般参加者 39 名(小学生 1 名含む)



弥山頂上での案内

今回は日曜日の開催のため多くの登山者とすれ違いながらの観察会になりました。紅葉谷ルートに登り、弥山本堂周囲で昼食後、弥山本堂前で「錫杖の梅」の由来を聞き、弥山信仰の歴史を勉強しながら頂上に向かいました。頂上で新装の展望台を見た後、大聖院ルートを下りました。植物ではナンゴクウラシマソウ、マムシグサ、ヤマボウシ、サカキカズラなどが印象に残りました。鳥ではオオルリ、キビタキ、クロツグミ、ホトトギスなどの声が聞こえ、夏鳥が盛んに巣作りをしている様子が伺えました。(大西会員のお話)

なお、5 月 17 日(土)に下見を兼ねた自主観察会を実施し、ミミズバイの生育標高上限を観測した結果は下表の通りです。

No.	標高(m)	樹高(cm)	樹囲(cm)	備考
1	380	144	4.7	紅葉谷ルートロープウェイ乗場への分岐点のやや下(新上限)
2	350	61	3.2	紅葉谷ルート15号堰堤近く
3	340	131	4.2	紅葉谷ルート14号堰堤近く
4	320	135	5.3	紅葉谷ルート13~14号堰堤の中間
5	355	155	4.4	大聖院ルート

また、「くぐり岩」が下がっていないか懸念されるため、通路高さの計測を開始しました。(初回は 191cm) (川崎 昭壽)

入浜池補足調査①

今年度より入浜池補足調査は有志グループが、必要に応じ適宜実施することになった。

日 時 4 月 5 日(土)13:00～15:00

参加者 小川 奥田 小林ペア 中道 松尾
松田 山崎 横路

【植物】

海岸付近でイワタイゲキが増えている。岩場でハマボッスを確認。

【水質調査】

水位は杭のレベルから行くと +7cm～+9cm、前回よりもかなり高くなっている。塩分濃度は B 地点で 0.02%、他の地点はほとんど 0%、水位が高くなっていることと関連づけることができる。PH は 5.8～6.7、COD は C 地点が 12、他の地点は 5～10 で水の汚れは少ない。

【昆虫】

今回は水際、中央部辺り、植物の枯れ葉周りとか広範囲に調査を行ったが水温が低いためかトンボのヤゴは確認できなかった。

以下、確認できた生き物を列記する。
マメゲンゴロウ、アメンボウ、ミナミテナガエビ、ベンケイガニの仲間、ユスリカの幼虫、チチブ、メダカ、ヨシノボリの仲間のゴクラクハゼ? (調査中) など。(文 小林 勲)

◇ 編集後記 ◇

環境省 HP によれば、弥山の登山者は年間約 20 万人程度という。一方、2016 年より 8 月 11 日が「山の日」として祝日になる。山に親しむ人が増えることは良いことだがルールをわきまえた登山を心掛けたい。(川崎)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所
(〒730-0012)
広島市中区八丁堀 6 番 30 号
広島合同庁舎 3 号館 1 階
TEL 082-223-7450